

東京商工会議所女性会

東商 Lady

第16号 2010.6

巻頭特集／対談

「地球の未来を変える女性」

国連人口基金(UNFPA)東京事務所長 池上清子氏と吉川会長

TOP SECRET



開発途上国での人口爆発、先進国での少子化と、相反する問題を抱えているように見える世界の人口問題。しかし、それらの問題の根底には女性に関する共通の課題があるようです。世界中の人が安心して住みやすい社会を作るため、「社会」が解決すべきこと、「人間」として考えること、「日本人」として「女性」として、「家族の一員」として未来に伝えていくべきことを国連人口基金（UNFPA）東京事務所長池上清子様におうかがいしました。

国連人口基金（UNFPA）という組織について

吉川：本日はご多用の中、インタビュアーの時間をいただきまして有り難うございます。どうぞよろしくお願い致します。

池上：このような機会をいただけましたことに感謝いたします。

吉川：池上さんが所長を務められている、国連人口基金（United Nations Population Fund：以下、UNFPA）とはどのようなところなのでしょう？

員の60%が女性という、女性が活躍している国連機関です。ちなみに国連では「全職員の30%を女性に」という目標を掲げています。UNFPAの場合、現在のトップ3は全て女性で、現在はサウジアラビア王国、フィンランド、インド人の職員で構成されています。

吉川：UNFPAという組織は、残念ながら日本にはまだ認知度が低いように思います。活動内容をわかりやすくご説明いただけますか。

池上：UNFPAは、地球上の人口と開発のバランスを取るために、「開発支援活動」を目的として43年前に設立され、現在では世界158カ国・地域で活動する国連機関です。私達を取り組んでいる人口問題には2つの切り口があります。ひとつは「増加と減少」、もう一つは「マクロとミクロ」という視点です。増加と減少はご存知の通り、開発途上国の人口増加と先進国の人口減少問題のことです。マクロの視点からとらえた人口とは、人口の世界的な動向や地域のデータ、そして、それを分析した上で計画と対策をたてることです。一方、ミクロの視点からみた場合は、人口を構成する一人

地球の未来を 変える女性



池上 清子
UNHCR 定住促進担当、国連本部人事局行政官、JOICFP、IPPF ロンドン資金調達担当官などを経て、2002年9月より現職。2008年、大阪大学大学院人間科学研究科博士号取得。著書に「シニアのための国際協力入門」（共著、2004年 明石書店）など。

ひとり、つまり私達の生活の質の改善に焦点を当てることになります。

人口問題とは置かれた状況によってどの切り口から見るかによって、見え方が変わってくるものなのです。

吉川..そうですね。世界の人口動態も絶えず変化していますね。

池上..はい、その通りです。「国勢調査」は基本的に「0」の付く年の前後に調査を行うのが世界基準となっていて、まさに2010年の今年は調査の年に当たります。調査結果をもとに、人口の動向を分析し情報提供をするのもUNFPAの仕事です。

日本は、少子化と高齢化が同時に起こりつつある特殊な国です。生産年齢人口が扶養される人の数を上回る時には経済が活発になります。これを「人口ボーナス」と言い、戦後の日本経済はこの恩恵を受けて発展してきたのです。

「アジアの4虎 (Four Asian Tigers)」と呼ばれる国と地域 (NIEs 4カ国: 大韓民国・台湾・香港・シンガポール) は、日本と同様に人口ボーナスの恩恵を受けて発展してきましたが、今問題なのは、開発途上国がこの人口ボーナスを使って一人ひとりの生活を向上させられるかとい

う点です。

吉川..そこでUNFPAの役割が重要になってくるわけですね。

池上..はい、私たちは、人口のマクロの面に関しては、開発途上国の人口動向の調査と支援を行っています。コンピュータや筆記用具などの物資の支援だけでなく、情報収集の仕方や分析方法などのソフト面での技術協力も行っています。

吉川..人口問題は、政治的な面にも大きな影響を及ぼしますが、日本における人口問題に関する政策についてはどうお考えですか？

池上..日本では既に1970年代から合計特殊出生率(二人の女性が生涯に産む子どもの平均数)は2.07を下回っていました。これは「人口置換水準」と呼ばれ、ある国の人口を同じレベルに維持するのに必要な数字です。つまり、当時から人口が減る傾向にあるということはわかっていたのです。ですから、今少子化は何かと、なぜ起きるかを問うことは、遅いのです。これから日本はどういう社会を作りたいのか、少子高齢化から起こる諸問題にどう対応するかということこそが、問われるべき問題なのです。

「お母さんの命を守る」ことは、現状を知ることからはじまる

吉川..現在、UNFPAの東京事務所では「お母さんの命を守るキャンペーン」をなさっていますが、今世界の中で母親が置かれている現状を教えてください。

池上..「生活の質」とは、実は私たちの健康、特にお母さんの健康にかかっています。今、世界のお母さんは1分に1人死亡なくなっています。この数字は20年前からほとんど変わっていません。このうち99%が開発途上国に集中しており、その死亡原因は栄養面の問題や出産時の合併症など、条件さえ整えば概ね助かるはずの命なのです。

先ほどの話の「ミクロ」の面に着目してみ

ますと、その理由がわかります。女性の地位が低い開発途上国の家庭では、食事は夫(大人の男性) ↓子ども ↓お母さんの順番に回ってきますから、お母さんの分まで食べ物が残らないこともあり、母親は栄養失調になりやすいのです。しかも、貧困地域では男の子は学校に行っても、女の子は家の手伝いをさせられるので識字率が低くなり、結果的に女性の立場が弱い理由の一つとなります。そして女性性は、栄養や衛生に関する知識も得られないまま、設備や衛生的に整っていない病院で出産に臨まなければいけません。さらには、病院で出産できなかったり、専門家の立ち会いもなく分娩せざるをえない女性も、非常に多いのです。

貧困や内戦などに苦しむ地域では、お母



さんを亡くすことは、子どもたちにとって大きな精神的試練であると同時に、人生の初期に母親から与えられるはずの、生きるために必要な教育を受けられないこととなります。そして、身を守ってくれる人がいなくなることは、生存が危ぶまれることになるわけです。望むと望まざるとにかかわらず、内乱に巻き込まれていく子どもの数も少なくありません。実際そうだった国では、お母さんがいる子どもとの生存率は、そうでない子どもに比べて10倍高いと言われています。

このように、お母さんの存在は、家族の健康、ひいてはその国の生産性を上げる効果があるのです。貧困と紛争の関係を考えた時、これは地球にとって重要な事と言えるでしょう。

これがミクロからマクロへの還元ですね。
吉川…人口問題というと、開発途上国では人口が増えており、他方、私たち日本やヨーロッパなどの先進国では少子化、高齢化が大きな社会問題になっています。こうした中で私たち、とくに女性にとって人口問題を考える共通の土台はあるのでしょうか。

池上…人口は、開発途上国にとっても先進国にとっても、背景には政治的な問題

を含んでいます。途上国の人口増加も、部族や宗教にとっては、選挙の有権者を増やしたいという思惑がある場合も多いようです。

また、そもそも「ある年の人口」とは、「前年の人口 + 出生数 - 死亡者数」で求められますが、世界的に見ると子どもの死亡率は減ってきているので人口は増える一方です。現在、世界の人口は年間で約7900万人増加しています。これはドイツより少し小さい国が毎年できていくという計算になります。このうち96%が開発途上国の人口です。

これは開発途上国では「子どもは死んでしまうもの」と思われているために欲しい数よりも多く産む、または、男性にとつて子どもの数が多いことは名誉であるといった考え方がいるため、女性が希望する子どもの数より実際に産んでいる数が多いという現実があります。

さらに、家族計画の知識が少ないことも影響しています。一方、日本、韓国、イタリア、スペインなどでは、合計特殊出生率は減少傾向にあります。家族計画が一般化しているためです。ただここで問題なのは、



日本の合計特殊出生率は1.37ですが、統計によれば、本来希望する子どもの数は2.56であることです。

つまり、日本の女性は子どもを持った場合の生活に不安があったり、仕事環境の問題などがあり「産みたいのに産めない」または「欲しい子どもの数を産めない」状況にあるのです。

ここで共通するのは、途上国であれ先進国であれ、「女性やカップルが産みたい数の子どもを産めない」という問題です。妊娠や出産に関する情報や教育、サービスがまだ足りないのです。そして女性の社会参加や、家事や子育てに関する男性のメンタリテイの問題もあるでしょうね……。

吉川…話を少し戻しますが「お母さんの命を守るキャンペーン」についてお聞かせいただけますか？

池上…日本では、ユニセフやユニセフの認知度は70%以上ありますが、UNFPAに関しては、名前を知らない、または知っていても何をしているところかわからないという方が多いのです。まして「女性のエンパワーメント」などといっ

てもなかなか理解されにくいので「お母さんの命を守る」活動を中心にキャンペーンを行いました。

意外に知られていないことですが、世界中の全妊産婦の15%は医療介助が必要であるというデータがあります。医療介助とは、妊娠中毒症や帝王切開などの対応をさし、日本の妊婦は大丈夫ということではないのです。

吉川…では、何に一番気をつけなければいけないのでしょうか？

池上…妊婦健診を受けることです。調査によれば、日本では出産で亡くなる妊産婦の多くは、妊婦健診を受けていなかったと報告されています。日本にも貧富の格差はあり、妊婦が若い場合には、経済的な問題もあります。そういう場合、例えばあとから精算できるとしても、その度に1回数万円かかる妊婦健診は負担が大きいことは確かです。

この妊婦健診の負担を軽くするために、バウチャー制度が検討されています。区役所に行けば、妊婦でなくても母子健康手帳をもらうことができます。日本の場合、情報はたくさんあるはずですから、女性もつと自分の健康を守るという意識を持つ必要があると思います。

生まれた国によって命の価値が変わってはいけない

吉川…ところで池上さんがこの世界にお入りになったきっかけは何ですか？

池上…自分の出産経験が直接的なきっかけでした。過熟児で大変な思いをしながらも、最新の設備が整ったニューヨークの病院で、産婦人科医に加えて、麻酔科医、小児科医、そして看護師たちに助けられ、帝王切開でなんとか無事に産むことができました。その時、世界では同じような状況で、きつと毎年何万人もの女性が亡くなっているということに気が付いたので、「私は先進国で出産したから生き延びることができたけれど、これが途上国なら母子ともに死んでいたのではないかと、ここに生まれるかで命の価値が変わっていいものなのだろうか。同じ母としてこのような不公平なことがあっていいのだろうか…」と思い、当時加藤シヅエさんが会長をされていた家族計画国際協力財団(ジヨイセフ)に飛び込んだのです。

吉川…加藤シヅエさんと同じように当時の先駆的な女性として、私たち東商女性会初期のころの会長、松川サクさんがいます。日本初の避妊具開発と商品化に成

功した方です。やはりこの時代には今では考えられない苦労があったのでしょね。

池上…はい、当時の「産めよ増やせよ」の世の中で、家族計画や産児調節を唱えることは、それだけでも非国民的な扱いを受け、大変だったと思います。

そんな中で「女性の自立」と「健康教育」を提言され、意志を貫かれた強さを見習いたいと思っています。私は、加藤さんの「自分の健康は自分で守る」という意志を継ぎたいという思いで「お母さんの命を守るキャンペーン」をしているところもあるように思います。

UNFPAの使命は途上国と先進国の架け橋になること

吉川…UNFPA東京事務所の役割とは何でしょうか？

池上…私達の使命は、途上国の情報を日本国内にお伝えし、架け橋になることです。UNFPAの活動は世界158カ国・地域で行われており、そのうち東京のような連絡事務所が5カ所にあります。当初は、支援活動を行う途上国にしか事務所は無かったのですが、2000年以降は



資金拠出国に対するアカウントビリティ(説明責任)のために、先進国にも事務所が設置され、アジア圏で唯一の連絡事務所が東京にあります。これは日本がUNFPAにとって、アジアでの最大拠出国であるからです。とはいえ、

UNFPAに対する拠出金は任意拠出金なので、ここ10年ほど減少の一途をたっています。そんな現状に対応するために、東京事務所では「お母さんの命を守るキャンペーン」を開始したのです。

このキャンペーンにご協力いただくためには、寄付の他にも、サポーター登録をする、という方法があります。所定の登録用紙にご署名いただくか、ウェブサイト(<http://www.unfpa.or.jp/mothers>)や携帯からでもご登録いただけます。

このキャンペーンは7月11日までで、終了時には登録いただいた全サポーターリストを日本政府に提出し、妊産婦の健康を守る活動にODA(政府開発援助)をもっと多く配分していただきたいと考えています。

吉川…女性会として何かお手伝いできることはございますか？

池上…私は、女性経営者が頑張る社会に期待をしています。

日本は様々な点で世界のトップクラスの国ですが、女性の社会参加度を示す指数(ジェンダー・エンパワーメント指数)は世界57位です。これは不本意な順位です。そこでまず、実力主義の経済界で活躍される女性が増やしていきたい。そしてその方々に、日本と全く異なる環境で生き、私達の想像もつかないような問題に直面している女性たちの存在を知っていただきたいのです。

次に、グローバル化が叫ばれている昨今ではありますが、世界は決して一律ではなく、女性が自分の人生を決めることが難しいという現実がまだまだあるということを、連帯意識を持って欲しいのです。

私からの具体的な提案として、先進国に旅行に行くときには、途上国にも足を伸ばして欲しいと思います。短い時間でも良いので、世界の現状を見ていただきたいのです。

吉川…人口問題といっても本当に様々な視点があり、私たち一人ひとりの生活の質や精神の向上、自立を計ることにつながる、素晴らしいお仕事ですね。本日は有り難うございました。

新年懇親会

1月27日ホテルニューオータニ「鳳凰の間」に於いて、平成22年東京商工会議所女性会新年懇親会が開催されました。多くの来賓のご参加に、粋な新内節の響き、吟味されたお料理と今回初登場の会場内撮影会といった嗜好で、新春を言祝ぐ盛大な宴となりました。

人間国宝 新内節三味線 新内仲三郎氏による コンサート



新年懇親会の開宴に先立って新内剛士氏、新内伸之介氏による「新内流し」が場内を一周。続いて人間国宝・新内節三味線 新内仲三郎氏による新内節ミニ講座がありました。最後に子宝三番叟が披露され、江戸情緒にあふれた晴れやかな調べに心を奪われました。
そして阿部千恵子常任理事より花束の贈呈がありました。



新内の調べに聴き入る出席者の皆様



吉川稲美 東京商工会議所女性会会長

性会会長が登壇、「皆様、新年あけましておめでとうございます。石原都知事、岡村会頭を始めとするご来賓の皆様におかれましてはご多用の中駆けつけていただき、心から感謝申し上げます。
昨年、東商女性会は創立60周年を迎え、11月に記念式典及び教育シンポジウムを開催いたしました。各地の女性会の皆様、そして親子の方々にご参加を賜り、嬉しい感想の言葉もたくさんいただいております。これも女性会会員の皆様のご協力の賜と感謝申し上げます。さて、世の中



岡島敦子 内閣府男女共同参画局長

のくもりなくあらまほしきは心なりけり」とのお歌にもあるごとく、心豊かで平穏充実な毎日を過ごしましょう。」とのご挨拶がありました。
続いて石原慎太郎東京都知事より「新年明けましておめでとうございます。今年はやっかいな年になりそうです。生活を支えている経済が危惧状態にあります。しかし、私たちはもっと知恵を出し合えば打破できるはず。日本人の持っている科学技術は世界に誇るものであり、広

新年懇親会 開会

午後6時40分、司会の古谷治子理事の紹介によって吉川稲美東京商工会議所女



石原慎太郎 東京都知事

では政権交代、JAL再建問題、また異常気象によっては作物のとれない状況が続く、食糧難に徐々に移行しているように思えます。日本の自給率は40%でしかなく、早い時期に深刻な状況に陥ることは目に見えています。しかし、元を正せば私たち一人一人の責任ではないでしょうか。今の自分はそれまでの行動の積み重ねであります。今、何に価値をおき、どのような思考でどのような行動をするのか、今の積み重ねが未来の自分を創ります。昭憲皇太后さまの「朝ごとにむかふ鏡



岡村正 東京商工会議所会頭

新年懇親会



小泉清子 名誉会長

げていくべきものであるのに何故か政治家はあまり興味を示しません。国内に目を向ければ国民は甘えすぎているように思います。日本人の資質が曲がり、価値観が狂い、緊張感がなくなってきました。タガがゆるんだ日本においてちゃんとした日本人を育てる社会を構築するよう、国民を代表して期待しています。」とご挨拶をいただきました。

次に岡島敦子内閣府男女共同参画局長より「お招きありがとうございます。日



齋藤朝子 名誉会長

本では国会議員やビジネスの世界において女性の素晴らしい力が活躍できていません。女性の皆様が力を発揮していくことが他の人に勇気を与えることになるでしょう。

また、2010年9月には日本で初めてAPEC女性リーダーズネットワークを開催します。これは男女共同参画社会実現のために女性達の経済活動の発展に寄与することを目的として毎年APEC議長国で開催されています。皆様にはぜひともご参加を賜りたいと存じます。女性



畠山笑美子 副会長

会のみますますのご発展とご活躍を祈念しております。」とご挨拶をいただきました。

続いて岡村正東京商工会議所会頭より、「日本経済は持ち直してはいるというものの極めて自立性に乏しく、地方や中小企業の経営者の心は極めて暗いと言わざるを得ない状況です。東京商工会議所は、昨年度策定いたしました『企業の力を未来へ結ぶ』というアクションプランを遂行し、中小企業を含めた地域経済活性化の旗印を掲げ推進して参りたいと決心しているところで

す。女性特有のしなやかな感性と、そし



阿部千恵子 常任理事

て既成概念や考え方にとらわれない自由かつ斬新な女性の皆様のバイタリティあふれる行動が地域活動の担い手として大きな期待が寄せられています。

地域社会を元気にする源泉として女性経営者ならではの豊かな構想力と行動力を存分に発揮され、会員のニーズに即した事業を着実に推進し、更に結束を強められまして活発な活動を実行されますようご期待申し上げます。」とご挨拶を頂戴しました。

引き続き小泉清子名誉会長から「本年は寅年ですが、エネルギーを発揮している虎は、虎は千里往って千里還る」ということですので、その猛烈な虎に



井上象英 副会長



お楽しみ抽選会に盛り上がる場内、会場の外では撮影会で撮った写真がすぐに販売され好評でした。

私達もあやからなければいけないので
はないかと思っております。

NHK大河ドラマ「龍馬伝」の台本

を見ますと、明治維新の前の幕末時代、
古い体制から脱却して新しい日本を作
ろうと、強い信念を持って国のために

命をかけて行動するという、大変高い
ビジョンを掲げて実行する力が今の日
本人に最も必要であると思われます。
東商女性会の皆様も未来の美しい目
標のために誠実なる心で、女性会の皆
様の未来永劫の発展のために全国商工
会議所のモデルになるように誠実を貫
き、そして、ピンチをチャンスにして
いこうではありませんか。」とのご挨拶
をいただきました。

続いて、畠山笑美子副会長より、ご
挨拶をいただいた方以外のご来賓の紹
介がありました。

その後、齋藤朝子名誉会長から「先週、
日本の某新聞社が制定している日本ス
ポーツ賞のグランプリ賞を内村航平さ
んという2年間に金・銀2つのメダル
を取った体操の選手が受賞なさった記
事を拝見したところ、彼は過去の栄光
に一切とらわれず、「私は前しか見てお
りません」とおっしゃるので、これは
今の日本に必要なことだと思いました。
いつも岡村会頭が仰る、個が光るイ
ノベーションは改革です。みんなが
そういう気持ちでいつも改革を忘れず
に維持するという才能を身につけま

しょう。この一年間、元気で前進して
いきたいと思えます。」との乾杯のご挨拶
がありました。

その後は、会食・懇談の時間となり、
その間に、ホテルニューオータニの宴
会料理長より本日の懇親会のために特
別にお作りいただいたメニューの説明、
阿部千恵子常任理事より女性会常任顧
問・顧問・相談役の紹介、新井英希理
事より新入会員の紹介が行われました。

会の終盤には、保田和江理事の司会
によりお楽しみの抽選会が行われ、今
年も多くの役員の皆様からご協賛いた
だき、当選番号が発表されるたび会場
からは歓声があがりました。

最後に井上象英副会長より「今年
は庚寅（かのえとら）という年。庚は煌々
としてその身を象るとあります。寅と
は虎。中国の古文書には、物が豊かに
実ることを、家の中で謹み願う年と解
説されています。今年は景気回復の年
となりますよう、心から祈念しており
ます。」との閉会の辞で盛会のうちに会
は終了しました。

静岡大会

平成21年4月17日、静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」に於いて、第25回関東商工会議所女性会連合会総会「静岡大会」が開催され、1都8県74女性会から727名の会員が参集しました。静岡県内9商工会議所女性会の皆様の明るい笑顔に出迎えられ、午後1時、総会が始まりました。



す。静岡市と清水市が合併して全国第14番目の政令指定都市として更に発展を遂げ今日に至る。



次に議件に入り、平成20年度事業報告(案)、同収支決算(案)、同21年度事業計画(案)同収支



力〜イキイキ・ワクワクライフの勧め〜が開かれました。「ビタミンCが糖尿病に有効になる



会員みんなで目指した久能山頂上の家康廟など、次の日のエクスカージョンも含め、地元女性会の皆様の様々のご準備に、感謝いっぱいの日間でした。



小泉清子関東商工会議所女性会連合会会長は主催者として全ての関係者に謝辞を述べられ、更に「100年に一度の不況といわれている最中であつてお集まり頂き大変嬉しく、皆様の心意気を沢山感じております。男女共同参画社会を発展させるため、一層の努力をして参ります。当地は、歴史上の天下人を輩出したばかりでなく、多くの日本一を有する素晴らしいお国柄です。この地をビジネスの益々の発展の地として頂きたいと存じます。」と締め括られました。

次に、松浦康男静岡商工会議所会頭から、「今大会は、13年振りに1都8県からのお客様をお迎えしての開催であります。静岡市と清水市が合併して全国第14番目の政令指定都市として更に発展を遂げ今日に至る。」と熱いエールを頂きました。

徳川家ゆかりの当地はまた多くの人材、美味しい食材、食べ物の宝庫でもあります。経済不況下、商工会議所の果たす役割も、女性会の今後の活動・活躍も広がる事でしょう。地域社会において存分にリーダーシップを発揮して欲しいと思います。」との挨拶がありました。

多数のご来賓を代表し、吉澤雅隆経済産業省関東経済産業局地域経済部長、花森憲一静岡県副知事、小嶋善吉静岡市長、中村利雄日本商工会議所専務理事から祝辞を頂きました。皆様から「我が国が直面する危機を連携して乗り越えて行く。女性会の更なる協力と貢献を期待する」との熱いエールを頂きました。

予算(案)は、原案通り承認されました。その後、次回開催地である、小山静江さいたま商工会議所女性会会長からのご挨拶と説明が行なわれました。

最後に、政策委員会報告が、政策委員長である安田純代千葉商工会議所女性会会長からなされました。1都8県、11件の事業展開報告があり、平成20年度の活動結果が映像で披露されました。平成21年度以降もテーマである、「環境」と「教育」問題へのアジェンダを胸に、盛会のうちに本大会が閉会致しました。

同ホールにて、医学博士姫野友美日本薬科大学教授による記念講演会「女力をアップするアンチエイジングと人間関係

には美白に使われ残っていた場合のみなので、摂取量を増やす必要がある」というような、最新の栄養情報に基づくサプリメントの活用術や、感受性の男女別差異は脳の作りの違いによるなど、学術的でユーモアにあふれた講演終了後、会場は大ホール「海」に移り、富岳太鼓の響きと共に、会場いっばいに数々の名産を供した懇親会が華やかに始まりました。その後、マジックショーやジャズコンサートなど、心行くまで春の宵を満喫した静岡大会でした。

電気がむすぶ交流の輪

平成21年12月4日、

首都圏エネルギー懇談会主催による

平成21年度女性経営者交流会 in 東京が

福島と新潟の原子力発電所近辺の

商工会議所・商工会女性部の方々を

お迎えし、品川プリンスホテルにて開催されました。

第一部 基調講演

「しなやかに現在(いま)を生きる」

〜 神津カンナのエネルギートーク〜

「現在、エネルギーと環境」の問題に直面しています。石油の埋蔵量は琵琶湖の約8杯分といわれるほど資源は枯渇し、地球は温暖化、人口は増加している中で、資源・食料・水をどこまで自給できるかが問われています。このような状況において原子力をはじめは語れません。フランスでは原子力は商品になっていますし、イタリアでは原子力をやめました。今は復活しました。大陸は



第二部 パネルディスカッション

「地球環境のために、私たちができること」

繋がっているので互いに融通しあうことができますが、日本は島国なので誰も助けられません。設備稼働率からいけば原子力発電は100%の内80%をエネルギーとすることができませんが、太陽光発電では15%程でしかないのです。いいところり」はできません。自然エネルギーと原子力との共存が重要なテーマとなるでしょう。」と、昨今のエネルギーの世界事情や私たちが今知るべき現実についてお聞きしました。

生島氏より「日本の持っている得意技をグローバル化し、世界に打って出られる日本にしていかなければなりません。小さな変化を起し続け、常にアンテナを張り、ネガティブなことを言わず、皆が当事者意識をもって仕事をしていくことが必要でしょう。」との言葉を受けて、井上氏は「人材はコストでは

第三部 交流懇親会

主催者の首都圏エネルギー懇談会様ご挨拶と、吉川東商女性会会長の「電気にもその故郷、生産地があることを忘れずにいたいものです。今年は電気の一大消費地東京において、福島・新潟・東京の女性経営者が共にエネルギーについて考え、大いに皆様との交流を深めて参りたいと存じます。」という挨拶の後、90名の参加者は美味しい料理に舌鼓をうちながら、お互いの情報を交換し旧交を温め、楽しい時間を持つことができました。

主催者の首都圏エネルギー懇談会様ご挨拶と、吉川東商女性会会長の「電気にもその故郷、生産地があることを忘れずにいたいものです。今年は電気の一大消費地東京において、福島・新潟・東京の女性経営者が共にエネルギーについて考え、大いに皆様との交流を深めて参りたいと存じます。」という挨拶の後、90名の参加者は美味しい料理に舌鼓をうちながら、お互いの情報を交換し旧交を温め、楽しい時間を持つことができました。



コーディネーター：
生島ヒロシ氏



パネリスト：吉田峯子
双葉町商工会女性部部长



パネリスト：品田信子
柏崎商工会議所女性部部长



パネリスト：井上象英
東京商工会議所女性会副会長



基調講演 パネリスト：
神津カンナ氏

人を豊かにする 環境・まちづくり

世界的建築家の視点から私達日本人が
無くしてはならないものや、
大事にすべきことをお話いただきました。

平成21年5月19日、東商ホールにおいて、東京・武蔵野・町田商工会議所女性会共催の講演会が建築家の安藤忠雄氏をお迎えして行われました。

世界的建築家の講演ということもあって、女性会開催のイベントにもかかわらず、男性の参加者が目立ちました。

まず、吉川稲美東京商工会議所女性会会長から「今年は厳しい状況が続いておりますが、この不況をどのような価値観や思いを持って取り組んでいけばよいのか、安藤先生からヒントをいただきましょう。」とご挨拶があり、安藤氏の講演が始まりました。

私のオフィスには年間多くの外国人見学者がやってくるが、彼らは「そこに入らないでください」という場所にどんどん入っていく。それはマナー違反のようだが、彼らは自分で考え、興味のある対象に集中した結果そうなること



ないこともある。それくらい夢中になつたり理想を追って走ってほしい。サントリーの佐治敬三さん



変える「海の森」プロジェクトや瀬戸内海一帯にオリーブを植樹する「瀬戸内オリーブ基金」はその



講演の後、安藤先生はホールロビーにて本を購入された方一人一人にサインをしてくださいました。

が見てとれる。しかし日本人はダメだといわれれば絶対にしないだろう。不況を脱するためには、彼らのような自分で考えて行動する自主性が必要なのではないだろうか。

最近の日本人はメールとパソコンばかりで、実際の行動となると何事にも無関心すぎる。あきらめずに何事も押し通すべきだし、自分の目でじかに見たものをもっと信じるべきだ。いくら情報を集めても、何も発信しなければチャンスも回ってこない。1979年に日本建築学会賞を受賞した「住吉の長屋」は、自分の工夫で暮らすことをコンセプトとして作った。私はいつでも夢や哲学のあるおもしろいものを作りたいので、時には施主の話さえ聞かないこともあった。

人などはまさに生涯青春を生きただが、今の日本ではこのようなタイプの人を見ないし、その気持ちを忘れていて、子供の目が死んでいる。それがとても気になっている。

与えられたものを受け取るだけで、良くないことは国や行政の責任にするという意味で、日本人は責任を持たない国民だ。今後は箱（ハードウェア）の時代は終わりソフトウェアの時代だが、不況を乗り切りたいなら運営や運用に夢を持って取り組むことだ。

私は、建築とは建物を建てるだけでなく周辺の環境も整え植樹を行い、作ったものを育てる発想であるべきと思っている。東京湾のゴミの埋立地を、緑豊かな森に変える「海の森」

一環だ。こうやって子供達に感性を教えるいかなければ次の時代はない。人はおもしろいことができないと長続きしないからだ。そして建物を作った人と毎年同窓会をし、人間関係を広げることで仕事も生まれている。世界から「日本人はいなくてもよい民族」といわれることがないよう、自分たちができること、民族としてできること、国としての日本人をもう一度考え直すべき時期が来ているように思う。

万雷の拍手のあと、青木且美町田商工会議所女性会副会長より安藤氏に花束が贈呈され、間野百合子武蔵野商工会議所女性会会長より閉会の辞が述べられ、講演は終了となりました。



平成21年6月19日、東商ビル国際会議場において、会員総会が開催されました。

吉川稲美会長の開会の挨拶、岡部義裕東商常務理事からの挨拶の後、東商女性会規則第17条により吉川会長が議長となり、議事録署名人に飯沼和子氏、久野麗子氏を指名し議事に入りました。

議件前に、女性会規則第10条第3項の規定に則り、副会長に畠山笑美子氏、常任理事に阿部千恵子氏を、6月9日の会頭承認を得て選任した旨の報告がありました。

その後、若林和子常任理事より議件1「平成20年度事業報告(案)」、市瀬優子常任理事より議件2「平成20年度収支決算(案)」について説明があり、監事2名を代表して野地英子監事の監査報告がありました。

続いて吉川会長より議件3「平成21年度事業計画(案)」、井上副会長より議件4「平成21年度収支予算(案)」、また、吉川会長より議件3にある創立60周年記念事業について説明があり、議長からそれぞれ諮られたところ、賛成多数により

承認されました。

続く議件5「理事の選任(案)」では、吉川会長より「女性会規則第10条第4項の規定には『理事は総会の承認を得て、会長が選任する』とありますが、会員の皆様から候補者の推薦をいただき、常任理事会で審議し、役員会で経緯報告後、承認を得ました。新体制当初、任期前半の運営状況を勘案して役員増員を図ると

申しましたが、今回は創立60周年を迎えることも踏まえて行うものです。」との説明の後、賛成多数により承認されました。



その他 創立60周年記念事業概要については、創立60周年

記念事業リーダー・山口玲子常任理事より「吉川会長を執行委員長とする創立60周年記念事業実行委員会を設け、その中に『式典』『懇親会』『シンポジウム』の3担当を設置し、役員・会員が各担当に分かれて検討中」との説明がありました。

最後に事務局より、記念事業の新型インフルエンザ対応について説明後、総会を終了し、懇親会へと場を移しました。

八月納涼大歌舞伎

～歌舞伎座さよなら公演観劇にて交流～

平成21年8月11日、東商女性会交流部主催の「八月納涼大歌舞伎」観劇会が行われました。

東京名所として歌詞にもよく登場する歌舞伎座の建物は、2010年4月末に幕を閉じ、建て替えにはいるということで、100名もの会員が参加して観劇を楽しみました。はやばやお集まりの会員さんには、建物を背景にかわるがわる写真撮影をなさる姿もありました。

第三部ははじめの演目は、谷崎潤一郎が大正時代に書き下ろした新作戯曲『お国と五平』(おくにとごへい)で、勤善徳悪の「夫の仇討ち」のはずが、やがて自己保身のための殺人行為に転じて行く主従の姿が描かれました。男女の情念、善悪の相対性、社会と個人の相克といった、現代に起きる事件にも通じる普遍的な問題に、背筋が寒くなる趣向です。

続く『怪談乳房榎』(かいだんちぶさのえのき)は、初代三遊亭円朝の口演をもとにした怪談噺で、「中村勘三郎四役早替りにて相勤め申し候」という歌舞伎ならではのエンターテイメントに、舞台の上の勘三郎丈より目が離せなくなるという一作です。女性会席もいくたびか、手品を見るかのような歓声に包まれていました。ラストには「本水」の流れ落ちる



滝から、夏の宵への涼しさをいただき、皆様歌舞伎座を後にしました。

勘三郎さんが口上でも述べられましたように、新しい歌舞伎座は2013年春の完成を予定しているそうです。



首都圏エネルギー懇談会主催

「2009年感謝の集い」

平成22年2月16日東京會館において、首都圏エネルギー懇談会主催「2009年感謝の集い」が開催され、東商女性会からは、吉川会長、井上副会長、畠山副会長他十数名の会員が参加しました。

第一部は、オープニング映像上映後、木元教子氏(評論家・元原子力委員会委員)と生島ヒロシ氏(フリーアナウンサー)による「どう考える日本」というテーマでの環境・エネルギーの最新の話題を中心にした対談でした。

日本の食糧自給率が40%しかないということは知られていることですが、エネルギー自給率はさらに低く4%、原子力発電を入れても18%しかないという、どちらも先進国最低という事実が驚愕しながらうかがいました。

その後第二部の懇親会は、木元氏・生島氏を囲み、終始和やかな交流の時間となりました。

長野全国大会

平成21年9月4日、長野市エムウェーブ（1998年長野オリンピック競技会場）に於いて、第41回全商女性連長野大会が開催され、全国319の女性会から3200名の会員が参集致しました。



定刻に開会が宣言されると、主催者挨拶の中で吉川稲美全国商工会議所女性会連合会会長は、わが国の中小企業が置かれている厳しい現状、地球規模での様々な異変、また人心の崩壊など、私達が日々直面している諸問題に言及し「この苦境を乗り越えるために、まず私達女性経営者が協調しあい元気を出しましょう。そして自然界の循環、秩序などは私達人としての生き方を教えてくれます。大自然から沢山の事を学びながら、自己の向上に努めましょう。自然豊かなこの長野大会からスタート致しませんか。」と、満場の参加者に呼びかけました。岡村正日本商工会議所会頭は「当地長野県は女性の社会進出において全国第二位を誇り、

今回の大会を契機に一層の連携と信頼の絆を深め、地域社会や日本経済の活性化のために、従来にも増して益々の活躍と発展をされますよう、心からご期待を申し上げます。」と挨拶されました。

す。」とのユーモラスな歓迎の辞に、会場の雰囲気が一気に和みました。他にも吉澤雅隆経済産業省関東経済産業局地域経済部長、腰原愛正長野県副知事、鷲澤正二長野市長をはじめ多くの祝辞があり、来賓の紹介へと進行されました。

科学的なお話から、現代の人間にとって大切なのは誰かの為に生きること、誰かに優しくすること、その優しさはブームのように自分に戻ってくるのだというお話は大変印象的でした。

開催地、室賀サダ子長野県商工会議所女性会連合会会長は「未来への風 さわやかに 長野から」をキャッチコピーに、300人の会員が今日の目を心待ちにしておりました。大勢の皆様のご協力により開催することが出来ましたこの大会が、信州を存分にご堪能頂き、参加された皆様の思い出に残るものとなりますよう祈念致します。」とご挨拶され、また、加藤久雄長野県商工会議所連合会会長の「今の世の中は女性の時代です。本大会を推

奨された長野県女性会の活躍も目覚しい限り。男性の10〜20倍の購買力を持つ女性に期待します。」とのユーモラスな歓迎の辞に、会場の雰囲気が一気に和みました。

その後、第8回「女性起業家大賞」授賞式が執り行われ、最優秀賞の権藤光枝氏をはじめとした受賞者の表彰、続いて、功績をあげられた女性会、会員の方々が表彰されました。最後に第42回開催地となる宮崎県の高柳節子商工会議所女性会連合会会長へ女性会連合会旗の引継ぎが行なわれ、式典の幕は閉じられました。

広い会場を活かした懇親会では、長野の皆様による趣向を凝らした舞台が繰り広げられ、地元のワインやお料理等々、心温まるおもてなしに参加者一同感激し、和やかな雰囲気におちこちに見られました。翌5日はエクスカーションで、初秋の信州の大自然と、文武両道の地の伝統を感じつつ、各所に長野県女性会の皆様細かい配慮がうかがわれ、最後まで大変有意義で心満たされた感動の二日間を過ごすことができました。

大変優れた人材を輩出しておられます。全商女性連では、吉川会長を中心に、更に結束を強め、

進んだ長野県女性会の活躍も目覚しい限り。男性の10〜20倍の購買力を持つ女性に期待します。」とのユーモラスな歓迎の辞に、会場の雰囲気が一気に和みました。

記念講演では、『幸せの探し方教えます』と題して諏訪中央病院名誉院長の鎌田實先生にお話し頂きました。人間の起源をたどって行くと、一人の女性の細胞に行き着くこと等、

科学的なお話から、現代の人間にとって大切なのは誰かの為に生きること、誰かに優しくすること、その優しさはブームのように自分に戻ってくるのだというお話は大変印象的でした。



大変優れた人材を輩出しておられます。全商女性連では、吉川会長を中心に、更に結束を強め、



進んだ長野県女性会の活躍も目覚しい限り。男性の10〜20倍の購買力を持つ女性に期待します。」とのユーモラスな歓迎の辞に、会場の雰囲気が一気に和みました。



記念講演では、『幸せの探し方教えます』と題して諏訪中央病院名誉院長の鎌田實先生にお話し頂きました。人間の起源をたどって行くと、一人の女性の細胞に行き着くこと等、



科学的なお話から、現代の人間にとって大切なのは誰かの為に生きること、誰かに優しくすること、その優しさはブームのように自分に戻ってくるのだというお話は大変印象的でした。

東商女性会の 先進経営者に学ぶ

平成21年9月25日、女性会研修部主催の第1回研修会
「東商女性会の先進経営者に学ぶ」を開催し、
それぞれの分野でご活躍されている当女性会メンバーの
方を講師としてお招きいたしました。

始めに吉川稲美東商女性会会長より

「自分の先入観を入れずに謙虚にお話を聞かせて頂くことは新しい発見にも繋がります。ご自身の仕事に生かしていくことも出来ます。自身の経営強化の為に自分自身の器を広げる糧にして頂きたく、ともに有意義な時間を過ごしたいと思っております。」とご挨拶がありました。

第1部 年齢や環境に関係なく 女性が仕事で輝き続ける社会 (エイジフリー)を目指して

太田みどり氏（エイジフリーキャリア

研究所代表）より、ご自身の営業職としての経験と社員の採用・育成・活用において大事なことで、特に「人間力」についてお話をいただきました。

「24年前、1歳の娘を抱えて、求人広告の飛び込み



営業として再就職しました。営業職の女性には非常に珍しかった頃です。この経験で営業の基本を肌身感じて学び、周囲の評価を得られるようになり2005年

サラダ・アドの代表取締役に就任。そのコンセプトを「エイジフリー」としました。2008年のリーマンショック以来、

今だからこそ女性活用を企業戦略として取り入れて欲しいと主張しています。逃げ場がないからこそ強い社員が育ち、人材育成により時期なのです。そして採用は先行投資です。一人一人の個性を大切にし、社員に「自らやろう」という気持ち起こさせます。仕事とは「人間力」が問われるもので、「人として」の部分の基本となります。ジェンダーエンパワメント指数を意識して、日本を変えていく事、社会を変えていく事の実現に近づけるようにしていきたいと

考えています。

第2部 健全経営は健康な 心と体から美しく健康に！！

小山悠子氏（医療法人社団明徳会サン

デンタルクリニック院長）より、歯科医師としての経験の中から健康のために気をつける点など実演を交えてお話いただきました。

「クリニックでの治療は統合医療としてツボ治療などの東洋医学的要素を取り入れています。足や首肩をもむ、合谷を押しこと等により患者さんはリラックスし、治療もスムーズに実施出来ます。そしてインプラントは種類が多いため、症例が多く安心してできるところで治療を受けることが大切です。

また、すべての生物は粗食の方が長生きすると言われています。食べる量を自然に減らしていくと効果的ですが、骨粗しょう症も増えていますので、骨を



小山氏のスライドショーとお話楽しく聞き入る

減らさない生活習慣を身につけましょう。筋力については、年齢に関係なく、使用しない筋肉は萎縮するが使用する筋肉は発達する」と言われ、正しい姿勢を心がけることにより筋力もアップします。

そして美しさを産むクセのひとつは「口角を上げて笑う」Winning Smileが有効です。日々の暮らしの中から人生での身体的な自由と質を高めたいことができるのです。」

最後に島山笑美子副会長から「とても役に立つお話を伺いました。今後の私たちの仕事や生活に活かしていきたいと思えます。ありがとうございました。」とご挨拶があり、東商女性会研修部第1回研修会は満場の拍手の内に終了しました。

輝き続ける 女性の生き方

平成22年3月8日、東商ホールに
NHK大河ドラマの脚本家、田淵久美子氏を
お迎えし、講演会が開催されました。

まず小泉清子関東商工会議所女性会連

合会会長より「皆様と久し振りにお目にかかれて嬉しく思います。一昨年、NHKの大河ドラマで『篤姫』が放映されましたが、その脚本をお書きになり、また来年の大河ドラマ『江』の脚本をお書きになる田淵久美子先生のお話を今日は皆様ゆつくりとお聞き下さい。」との挨拶がありました。

エレガントな黒の上下に身を包んだ田淵氏が登場されると、どよめきが場内から起り、次の瞬間拍手が鳴り響きました。田淵氏は開口一番「私は今、女性の、皆様のパワーを感じております。」と話され、ノンフィクション作家の歌代幸子氏との対談による講演が始まりました。

最初の「脚本家とは？」という歌代氏の質問に対し、「脚本家の仕事は、ドラマのすべてを作ることにあります。ド



があり、登場人物についても史実と異なるのではないかという質問を頂いたりしますが、どの



す。また、直感が優れているのも女性の特徴です。些細なことでも、意識的に自分のために行



います。来年の大河ドラマ『江』の姫たちの戦国〜を楽しみに、そして田淵先生の益々のご活躍に期待を申し上げます。」と閉会の辞を述べ、講演会は終了致しました。

ラマは、いわば一話一話が一冊の本です。

一話の場面全部の情景や効果を作り、台詞を全部入れます。小説家と違い、俳優やスタッフとの共同の仕事です。私は、脚本家は視聴者いかに喜んで観て頂くかということテーマとするサービス業であると思っています。」と答えられました。

次に「今だから話せる『篤姫』の裏話について」という質問には、「最初、いくつかの候補を提示され、その中から直感で選びました。鹿児島での現地取材は極秘裏に行いました。大河ドラマはその土地の経済などにも影響を及ぼすからです。ドラマ創作の過程では、史実と虚構をどのように取り混ぜて行くかというところ

ように面白く楽しく観て喜んで頂けるかというのもドラマにとつてはとても大切なのです。」と話されました。

質問が、ドラマの中で篤姫の乳母「菊本」に語らせた「女の道は一本道である…」という言葉に及ぶと、田淵氏は、「ご自身の25年間にわたる脚本家としての、また一人の女性としての『二本道』を語られ、会場は静かな感動に満たされました。そして「女性の輝き」という本講演のテーマについては、「女性には、幾つかの輝きの段階があると思います。女性というのは、それだけで輝いている存在であり、色々なシーズンを生きて行く事ができま

す。また、直感が優れているのも女性の特徴です。些細なことでも、意識的に自分のために行



い、自分自身の時間を持つこと。自分との対話なしに何かを創造することはできないからです。」と話されました。

質疑応答後、吉川稲美東京商工会議所女性会会長が「今日のテーマに相応しく、輝いて見える田淵先生を拝見しながら、そのお話の一つ一つが胸に響いて参りました。『篤姫』においても、昨年の『天地人』の直江兼統の正室お船の方も、いつの時代も女性が裏で世の中を支えて来ました。私達も見習わせて頂きたいと思

2009年度 新会員との ランチミーティング

春を待つ余寒の平成22年2月22日、東京商工会議所会議室に於いて「新会員とのランチミーティング」が開催され、ビジネス事業部担当の井上副会長と野地リーダーを含む32名が出席致しました。

ランチ後のコーヒータイムになると、井上副会長から女性会についての概要説明がにこやかに語られて、オリエンテーションがはじまりました。

続いて各部（交流・研修・社会貢献・ビジネス事業・情報広報）代表が、それぞれの部会活動のアピールを行って入部のお勧めをしました。

新会員の皆様からは、説明が「簡潔でわかりやすい」という嬉しい感想がありました。

そして、新会員と既会員各々の自己紹介と業種説明から、自由な名刺交換へと、和気あいあいの中でミーティングが進められ、活発かつ楽しい交流のひとつとなりました。

また、数名の方がさっそく当日、このランチミーティングを主催したビジネス事業部への入部をお決めになりました。

ゴルフ同好会報告

平成21年の同好会ゴルフ、第1回4月9日は成田にあります「スカイウェイカントリークラブ」で桜満開の中、須貝プロを迎えてのプレーでした。（写真参照）プロが各組に3ホールずつ入り、教えて頂きながらの進行で皆大喜び…。第2回7月4日は恒例の蓼科フォーラム宿泊にて、清々しい風に吹かれ「フォレスト三井の森カントリークラブ」での一日となりました。

秋はすばらしい紅葉を背景に「メイプルポイントカントリークラブ」でのゴルフ会も行い、続く11月9日の「会頭杯 本・支部役員懇親ゴルフ会」には「我孫子ゴルフ倶楽部」に20名が参加させて頂き、この1年の同好会ゴルフを盛況のうちに終えました。

平成22年第1回は20回記念大会という事で同好会皆様の声をさらに取り入れ、名門「武蔵カントリークラブ」でのプレー。第2回は蓼科フォーラムで1泊2日のゴルフ、第3回は日曜日開催のコンペがすでに決まっています。新会員も徐々に増えて、この1年も交流、親睦を大切に進んでいきたいと思っております。



2009年度 東商役員交流会に 女性役員が出席

春爛漫の陽気に恵まれた4月10日、綱町三井倶楽部において東京商工会議所役員交流会が行われました。

庭園でのオープニングセレモニーは、東京商工会議所岡村正会頭の「今日は天皇皇后両陛下の金婚式というおめでたい日、心より御祝を申し上げます。

また、前年までは“園遊会”と称しておりましたが非常に厳しい現在の経済状況を鑑みて今回から規模を縮小して“役員交流会”と致しました。商工会議所といたしましては政府へ様々な追加予算の要望を提出いたしました

が、すべて通ったとのお返事を頂きました。これからも皆様にますますのご協力をお願い申し上げます。」とのお挨拶で始まりました。

乾杯の後、本館2階ではミニコンサートが開催され、1階にお茶席が設けられました。

優雅な佇まいの本館は大正2年、鹿鳴館設計者でもあるジョサイヤ・コンドル博士設計により建てられた西洋建築の傑作とのこと。緑豊かな園内では桜が今を盛りと咲き誇り、ハラハラと舞う花びらが、参集した300余名の出席者を包み込んでいました。



福島県女性経営者プラザと 東京商工会議所女性会との懇談会

～平成21年10月14日午後
東商ビルに於いて懇談会が開かれました～

※福島県女性経営者プラザは、福島県中小企業団体中央会の支援を受け、福島県内全域の女性経営者で運営する任意組織で、現在40数名の会員で構成され、今年創立14周年を迎えられました。

今回の懇談会には川崎葉子福島女性経営者プラザ会長他16名が出席され、東商女性会からは、吉川会長、井上副会長、畠山副会長、他18名の役員が出席致しました。

畠山副会長の開会のご挨拶後、名刺交換が行なわれ福島銘菓のお土産をいただきました。川崎会長は、平成18年の首都圏エネルギー懇談会主催の柏崎視察の際にもご参加で、その時名刺交換をした東商女性会

会員との再会を果たすとともに、旧交をあたためる時間になりました。その後、吉川会長、川崎会長からのご挨拶に続き、互いの会の事業概要説明と意見交換が行なわれました。厳しい経済環境下ではありますが、これからも女性特有の資質を認め合って交流を深め、自己研鑽に励みながら、次世代の育成にも邁進していきましょう、という共通の思いを新たにして、懇談会は終了致しました。





岡村会頭より感謝状を授与される永年会員。

会員はブルーのジャケット姿で皆様をご案内した。



その後、東京商工会議所女性会会員として20年以上の永きにわたり活動されている38名の方々に永年会員表彰が贈られました。受賞者を代表して野地英子監事に岡村会頭より感謝状が授与され、それぞれのテーブルにてご起立の被表彰者の方々と共に大きな拍手を受けました。

最後に畠山笑美子副会長より閉会の辞が述べられて、式典は滞りなく終了いたしました。

ロビーには「歌舞伎着物展示コーナー」、大日本茶道協会のご協力による「お茶席」や江戸情緒あふれる屋台が設えられ、式典前後の一時をお楽しみいただきました。



東京商工会議所創立60周年記念事業 懇親会

引き続き、司会進行は山口玲子常任理事が行いました。

はじめに畠山笑美子副会長の開会の言葉で懇親会が開宴致しました。

次に来賓である石原慎太郎東京都知事の祝辞がありました。

「オリンピックを東京に招致するべく協力していただき、皆様には大変御世話になりました。東京のプレゼンは最高でしたがとても残念です。招致活動が終わってから色々なことを聞かされ、知っていれば良かった事がたくさんありました。日本は過去にも大阪、名古屋とオリンピック招致を名乗りましたが、どのようにして破れたのか、レガシーコスト、つまり過去のしごらみから生じる負担（いわゆる負の遺産）の情報が残っていないことを知っ



石原慎太郎 東京都知事

東京商工会議所女性会 創立 60 周年記念式典・懇親会

平成 21 年 11 月 13 日 (金)
グランドプリンスホテル新高輪「飛天」

エントランスホール「うずしお」のアトリウム空間に、白井崇陽氏によるヴァイオリンの美しい演奏が響く中、各地からのお客様をお迎えしました。

会場内では参加者の来場にあわせて東商女性会 60 周年の歴史を綴った映像を放映し、女性会の歴史を振り返っていただきました。

司会の山口玲子常任理事の紹介によって井上象英副会長が登壇「東京商工会議所女性会が昭和 24 年に発会してから、今日で 60 周年を迎えることができました。本日は式典、懇親会、そして明日はシンポジウムとございますので、最後までごゆっくり楽しんでいただけたらと思います。」との開会の挨拶で記念式典が始まりました。

国家斉唱の後「商工会議所女性会の歌」が続き、東京商工会議所女性会会員らの歌声が朗らかに広がりました。

次に創立 55 周年以降に亡くなられた会員の皆様に黙祷が捧げられ、静かな祈りのひとときが流れました。

そして吉川稲美東京商工会議所女性会会長より「本日はご多用の中、多くのご来賓の皆様のご臨席を賜りまして心から感謝申し上げます。また、全国津々浦々から 250 名近い全国商工会議所女

性会の皆様のご参加を賜りましたことは“お互いに支え合っている”という女性会のネットワークの強さを実感でき、力強く感じますとともに、心から感謝の念でいっぱいでございます。また、本日、東商女性会が無事に創立 60 周年を迎えられましたのもひとえに歴代会長、諸先輩、そして会員の皆様のご努力に支えられ、東京商工会議所の会頭をはじめ役員、議員、関係者の皆様にご支援を頂きましたお陰と改めて感謝申し上げます。60 周年という節目の年を迎え、今一度商工会議所の原点に立ち返り、「報恩・感謝・育成」の理念のもと、これからも商工会議所の一翼を担う組織として、活力ある魅力ある社会の構築を目指した活動に努めて参りたいと思っております。」との挨拶がありました。

岡村正東京商工会議所会頭からは「女性会には、地域経済を“元気にする源泉”として、女性経営者ならではの豊かな発想力と行動力を存分に発揮され、今後の女性会活動をさらに充実したものへと発展されることを期待しております。」との祝辞をいただきました。

そしてご来賓を代表されまして高原一郎経済産業省関東経済産業局長より「今日までの輝かしい実績を礎に今後とも様々な活動を通じ、女性経営者ならではの感性と消費者ニーズの把握を通して、明るい未来へ向け日本経済の牽引役としてますます貢献されることを期待申し上げます。」との祝辞をいただきました。

また、全国から頂戴したたくさんの祝電の中から、鳩山由紀夫内閣総理大臣及び小泉清子名誉会長の祝電が披露されました。

今原点に立ち返り 魅力ある女性会を目指す



吉川稲美 会長



岡村正 東京商工会議所会頭



高原一郎 経済産業省関東経済産業局長



井上象英 副会長

たのです。それはきちんとを継承しないといけない情報ではない。レガシーコストを踏まえた上で、総力戦で望まない国際競争には勝てません。近い将来、子ども達の為に是非東京で、日本でオリンピックを開催しましょう。」との挨拶を頂きました。



川端達夫 文部科学大臣

齋藤朝子名誉会長からは、「女性会は東商の会頭をはじめ、歴代会長の方々、役員の方々、会員の皆様の熱意やネットワーク、そして全国の会員の方々のご支援・ご協力を頂き、今日に至ることが出来ました。更に、円熟した活力のある女性会になりますように。」との言葉とともに乾杯の挨拶をいただきました。川端達夫



齋藤朝子 名誉会長



荒川静香氏



京谷和幸氏



斉藤 仁氏



辻井いつ子氏

た。

そして日本の森林が減らないようにと取り組まれている「樹（いのち）リレー」プロジェクトの檜と杉の緑苗とどんぐりの実が参加者に配られ「2011年3月に植林するために各々の家で大切に育ててください。」というメッセージを頂きました。

パネルディスカッション（第2部）

再び斉藤仁氏と京谷和幸氏が登壇されました。

「育てる」について斉藤氏からは「人に感謝し、人と共に生き、自分の手でオリンピック選手を育てたいと思います。今まで教えた子ども達にいろいろな修行をさせてもらいました事を感謝しております。」続いて京谷氏から「子どもに対しては感情的に怒らず、叱るということを心がけています。子どもを教育する為には、まず自分を教育し磨くことが大切です。」

次に「子ども達へメッセージをどのように伝えるか」について斉藤氏からは「子どもの心に響く言葉を投げかけること。子どもが何を言わんとしているのかを察知して必要な言葉を投げかけることが大切です。」そして京谷氏からは「多くを語らず自分の生き様を見せることが大切です。自らを成長させることにより、子どもの成長と共に歩むのです。笑顔でね。」とのメッセージを頂戴しました。

斉藤氏には若林和子常任理事から、京谷氏には清水洋子常任理事から花束の贈呈がありました。

辻井いつ子氏講演「夢をあきらめない」

続いて辻井いつ子氏による講演が始まりました。

私は子ども（ピアニスト：辻井伸行氏）の誕生

マイナスからの子育てでも決してあきらめない！

常任理事より花束の贈呈



で大きな試練を味わいました。ある日、目の見えない息子に玩具のピアノを買いましたら、息子がそのピアノでジングルベルを弾いたのです。私はその時、この子が好きなものが一つあればハンディを背負って生きていく上で助けになると思いました。

5才の時、サイパンに家族旅行をした折りにホテルでピアノを弾く機会に恵まれました。人前でピアノを弾き、初めて賞賛され、外国人がハグして喜んでくれるという体験から私は息子の好きなことを後押ししようと決意しました。

ピアノは恩師にも恵まれ、音楽コンクールで受賞するようになり、私は子どもが一生懸命やったことを誉めることを心がけるようになりました。

中学1年生の冬の佐渡裕氏と出会いは神様が贈り物をくださったのだと思っています。そしてヴァン・クライバーン国際ピアノコンクールではのびのびと演奏することができ、日本人として初めて優勝を果たすことができました。

子どもの可能性は無限大です。あきらめず信じてきたことがこのような結果に繋がりました。私たちは子どもの前進を阻んではなりません。

降壇される辻井氏に阿部千恵子常任理事より花束の贈呈がありました。

最後に井上副会長より「本日は講師の方々には自分の夢を持つことの大切さ、命の大切さ、家族の大切さについて語っていただきました。皆様にはご家族で色々な思いを語っていただきたいと思います。」との閉会の辞が述べられました。

時の商売を支えているのは母親でした。女性が社会において経営の最前線で頑張っていくことは素晴らしいことです。多くの先輩が作ってくださったこの会が喜びとともに大きく飛躍されることをお祈り致します。」との祝辞を頂きました。

和やかな雰囲気の中、アトラクションとして、京谷弘司タンゴトリオの紹介がありました。

今は亡きアルゼンチン・タンゴの巨匠アストル・ピアソラから「近い将来アストル・ピアソラのライバルとなるコウジへ！素晴らしい音楽に乾杯！」と喜びのメッセージを受けた日本が誇るバンドネオン奏者。タンゴに対する真摯な姿勢は、自ずとその音楽性にも現れ、聴いた人の心に深く感銘を残す素晴らしい演奏となりました。そして、華麗で情熱的なステップでフロア一杯に踊る、エレガントな素晴らしい表現のタンゴショーは会場の人々を引き



島山笑美子 副会長

東京商工会議所女性会創立 60 周年記念事業

記念シンポジウム

I have a dream!

～夢をかなえるために、今、君たちができること…。～

平成 21 年 11 月 14 日

13日に続き、白井崇陽氏によるヴァイオリンの調べが流れる中、東商女性会会員が笑顔で来場者をお迎えいたしました。

ご来場者の中心は小学校高学年の子どもたちとその保護者。受付で渡された着席エリアを示すリボンに胸に入場すると、テノール歌手勝又晃氏による「君が代」独唱（ピアノ伴奏五味こずえ氏）によってシンポジウムが開会しました。

司会の古谷治子理事の紹介によって、吉川稲美東京商工会議所女性会会長が登壇し、「会場の皆さんの中にはこれからの日本の経済を担ってくださる方がいるかもしれませんし、女性経営者となる方もいらっしゃるかもしれません。今日は一昨年、新潟で被災された親子の皆さんも参加されています。この時間を有意義に過ごしていただき、ご家庭でお父様、お母様と夢について話し合っただけだったらと思います。」と主催者挨拶を述べました。

再び勝又氏が登壇、「誰も寝てはならぬ（トゥーランドット）」が響き渡ると、2006年トリノオリンピック女子フィギュアスケート金メダリストの荒川静香氏が姿をあらわしました。

荒川静香氏講演「ささえ」のちから

5才の時に家族でスケートリンクへ行った時、同じくらの年頃の女の子がキラキラしたコスチュームを着ていたのにあこがれてフィギュアスケートを始めました。

そしてフィギュアスケートがオリンピックの種目であるということがわかってからずっと、オリンピックに出たいと思い続けていました。ただ、2004年の世界選手権に優勝することができたとき、自分の気持ち



子どもを教育するためには、
まず自分を教育し磨くこと…

真剣に話を聞く子ども達



環境保護プロジェクト 「樹(いのち)のりレー」 —苗木とともに大きくなろう—

次に、協同組合匠の会スタッフによる講師役と生徒役の掛け合いで、環境保護活動についての愉快的クイズ形式による授業が始まりました。

付けました。

次に、次回の全国大会の告知として、日高美枝子宮崎商工会議所女性会直前会長、中村紀代子副会長が壇上に立ち、「来年はたくさんの方がお越し頂きますように」とのご挨拶がありました。

抽選会では、幸運を得た会員のよるこびの声で会場は楽しい雰囲気いっぱいになりました。

名残を惜しみつつ最後に、阿部千恵子常任理事により、皆様への感謝の言葉とともに、「60周年記念事業に関して、東商女性会実行委員会のメンバーの皆様にご心よりお礼を申し上げます。」との言葉を添えて閉会の挨拶となりました。

アトラクション会場では、お客様の要望に合わせた江戸館細工の実演や製作、江戸錦、似顔絵の実演、紙切り、シヨが行われ、どの場所もたくさんの人が集まり、それぞれの作品が完成するたびに、感嘆の声と拍手で賑わっていました。



阿部千恵子 常任理事

皆様が入会の東商女性会、今回はその活動を推進する5部についてご紹介いたします。

東京商工会議所女性会 5部の活動

～参加するなら、作りながらというのが面白い！～

東商女性会担当事務局さんたちのサポートで、東商の一翼を担う女性会の活動を楽しく皆さん方と計画し、各部の事業を実現させます。

それによって、あなたも、日本も、ますます元気になっていきます。

ともに活動することで、女性経営者仲間の交流範囲もどんどん広がります。

入部資格は会員であること。各部リーダーは、皆様のご参加を心より歓迎いたします。

(情報・広報部のみ、撮影・編集・PC活用等について、若干の慣れと理解を必要とします。)

東京商工会議所女性会 各部 担当

	交流部		研修部	社会貢献部	ビジネス事業部	情報・広報部
担当副会長	島山副会長			井上副会長		(吉川会長)
担当常任理事	阿部 常任理事	全国大会担当 市瀬 常任理事	山口 常任理事	久家 常任理事 清水 常任理事	若林 常任理事	—
リーダー	安達理事 		須永理事 	竹ノ内理事 	野地監事 	田中監事 
主な担当業務	<ul style="list-style-type: none"> ・新年懇親会 ・観劇会 ・外部団体交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国大会の参加、視察先の検討 ・会員参加の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・セミナー(講演会) ・視察研修会 	<ul style="list-style-type: none"> ・「教育問題」などのテーマについての検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・新会員とのランチミーティング 	<ul style="list-style-type: none"> ・東商 LADY ・女性会 HP

ご参加の会員さんに会場の様子を記事にして頂きました！

東京商工会議所女性会 平成22年新年懇親会

松平 洋史子

あらたまのご挨拶と晴れやかな笑い声から、しんと静まり、人間国宝でいらつしやる新内伸三郎氏の新内節が日本の文化を醸し出しながら、厳かに清々しく会場を包みました。

主催者として来賓の温かい挨拶と乾杯の後、ホテルニューオータニ宴会料理長 大塚勝様の心づくしで盛り付けられたお料理は、口に優しくとても円やかで、各テーブルの話しも盛り上がりました。

昨年2月から今年1月までに女性会に入会した新会員のご紹介も、われ、各テーブルには理事が付き、新会員へのケアもなされていたと思います。

終盤は、皆様が楽しみにされている抽選会が始まり、番号が次々と呼ばれる度に大きな歓声が沸き、会場を盛り上げておりました。

2010年、ふと自分を見失ないような時でも、この女性会の誇りある姿勢に勇気づけられ、明るさを失うことなく邁進して参りました。そして、今後の皆様の発展を祈願致しております。

(会員皆様のご投稿をお待ちしています！)

COVER PHOTO

撮影者 高橋 まゆみ <http://www.stbears.com/mayumi>

1964年 神奈川県横浜市生まれ。神奈川県立横浜平沼高等学校卒業後、キヤノン販売株式会社入社。同社退職後、独学で写真を学び、2001年フリーランスカメラマンとして独立。〈絆〉をテーマに家族、親子、夫婦を撮影。近年はアジアの子どもと女性を、写真を通じてサポート。また、自分とパワーを共有できるという感覚で、同時代を生きる女性へのエールをこめ、40才代からの女性で〈今〉を前向きに生きている女性の写真撮影を展開中。

< TOKYO >

丸の内を皇居前広場より写す。松の懐に抱かれ、マークを輝かせる東商ビルの竣工は昭和35年。東商女性会とも半世紀を共に歩んだ姿は、雄々しくも懐かしい。



行事 東商女性会今後の予定 平成22年6月～

開催月日	内容	場所
6月11日(金)	総会・懇親会	東商ビル
8月27日(金)	都内女性会との合同視察会	日本科学未来館
9月13日(月)	チャリティーコンサート	相田みつを美術館
10月15日(金)・16日(土)	全国商工会議所女性会連合会 宮崎全国大会	ワールドコンベンションセンター サミット(宮崎)
11月19日(金)	臨時総会・懇親会	東商ビル
平成23年1月26日(水)	新年懇親会	ザ・キャピトルホテル東急

異動 東商女性会担当事務局より

(栄転) 中井 宏好：会員交流部 会員交流センター所長より文京支部事務局長に

(着任) 西郷 直紀：墨田支部次長より会員交流部 会員交流センター所長に
「中井の後任で、4月から会員交流センターに赴任しました。皆様どうぞよろしくお願ひ申し上げます。」

この冊子に携わった人々

大津 洋子 佐藤 光子
志摩 淑子 鈴木 紀子
高田 悦子 椿 克美
中西 志保美 永野 愛
野地 英子 林 香都恵
松江 仁美 松平 洋史子
保田 和江

(以上お名前は50音順)

田中 L. 洋子

To the Readers

東商女性会の創立60周年は、日本の戦後60年に重なります。当時からの関係が深い米国「ポストン コンサルティング グループ」の調査によると、女性オーナーの企業は全米企業平均の2倍の割合で成長しており、今や世界の消費動向は女性が握るとさえ言えるそうです。日本でも「今は女性の時代。」とおっしゃる方は増えています。そんな中で「女性の会は多いけど、東商の中に女性会がある必要は何かしらね？」と尋ねられました。そんなとき「小さな企業の経営者であっても、女性を活かす社会システムの法制化に、一番近い位置で参加できるのが東商の一翼を担う東商女性会かしら。」と、自分は答えます。

女性会の先輩方の胸には、海外からの「日本に世論はあるか？」の問いに、商工会議所設立をもって答えた洪沢翁の心が生きてきました。その志を、私たちが女性会の熱意と結びつきによってさらに具現化してゆく10年後、50年後を想います。情報・広報部による今号のコンセプトは「女性の立場」です。皆様からの忌憚なきご意見ご感想を、お待ちしております。

東商女性会 情報・広報部リーダー：田中 L. 洋子

INDEX

- 02 会長対談：UNFPA 池上所長
- 06 新年懇親会
- 10 関商女性連静岡大会
- 11 女性経営者交流会 in 東京
- 12 安藤忠雄氏講演会
- 13 平成 21 年度東商女性会総会各部の活動や関連行事出席
- 14 全商女性連長野大会
- 15 女性会先進経営者に学ぶ
- 16 田淵久美子氏講演会
- 17 女性会での活動と交流
- 18 東商女性会 60 周年
- 22 東商女性会 5 部の活動
- 23 Cover Photo その他

東商Lady

2010年6月24日 / 第16号

発行所 東京商工会議所
会員交流センター

発行人 東京商工会議所女性会
会長 吉川 稲美

編集 東京商工会議所女性会
情報・広報部



商工会議所女性会